



地域国際化協会連絡協議会会長
(公財)山口県国際交流協会理事長
二井 関成

草の根交流を考える

山口県国際交流協会では、「留学生ホームビジット交流」の取組みをしています。

これは、県内の大学に在籍している留学生を家庭に招いて、家族の一員として食事や会話を楽しんだりしながら、日本の生活や文化を体験してもらい、相互の理解を深めるという事業です。

いつもは、学校と自宅との往復になりがちな生活を送っている留学生にとって、日本の家庭に入ってその生活や文化を体験することは、とてもいい思い出になるものです。

若い時を外国で過ごし、その土地の文化や習慣などさまざまなことを学び、経験するという事は素晴らしいことで、その経験と記憶は、頭の中に刷り込まれ、何時までも残っています。

今年の2月、バングラデシュの方が当協会を訪ねてこられました。その方は、昔、山口大学で学んだ留学生で、今では、バングラデシュの政府関係機関で高い地位に就いておられました。

この度、山口県に里帰りをし、山口大学で記念講演もされました。

その方は、山口県での留学生生活にとっても良い思い出を持っておられ、嬉しかったことは、お世話になった下宿のおばさんに再会出来たことだったそうで、留学当時のことを思い出し、本当に懐かしいと回想しておられました。

私は、このような若い時の体験は、その人の心の中に思い出として残り、そのことが巡り巡って、国と国との関係にも少なからず良い影響を与えるものだと考えています。

今の日本を取り巻く国際環境は、大変厳しいものになっていますが、この困難な状況を変えていくためにも、外国人住民との草の根交流はとても重要で、着実に進めていく必要があると感じています。

当協会としても、「留学生ホームビジット交流」、「青少年交流」などの取組みを、幅広く進めていく必要があると考えています。

そのための基礎となるものは、日本語の習得です。県下各地域で日本語教室が開かれ、ボランティアの皆さんが活動しておられます。

当協会としても御支援をしているところですが、このような地道な草の根の活動を進めることにより、留学生をはじめ外国人住民との交流が一層深まることを願っています。

地域国際化協会連絡協議会では、自治体国際化協会の支援を受けて、外国人住民に対する多言語情報の提供や職員を対象に専門的研修の実施など人材育成の取組みをしていますが、これにより全国各地域の様々な草の根活動が実を結んでいくことを期待しているところです。